

東京帝國大學經濟學部內 東亞經濟研究所

年四回（二月、五月、八月、十一月）發行

東亞經濟叢論

第貳卷 第一號

昭和十七年三月

特輯 南方經濟號

南方經濟の基本問題……………	經濟學博士	谷口吉彦
最近佛領印度支那幣制に於ける二つの改革……………	經濟學博士	松岡孝兒
比島資源價値の進展……………	經濟學士	淺香末起
ビルマの資源と産業と貿易……………	……………	大場忠
インドの農産資源……………	文學士	岡崎三郎
濠洲經濟事情……………	……………	宮崎亮
農業投資植民地としての蘭領インド……………	經濟學士	北博
印度支那におけるフランスの經濟政策……………	經濟學士	河野健二
日本經濟と南洋貿易……………	經濟學士	松井清
南方纖維原料の生産について……………	經濟學士	岡部利良
南方ゴム資源と其の對策……………	經濟學博士	谷口吉彦
南方資源論……………	經濟學博士	蜷川虎三

附錄 南方文獻目錄

書肆 有斐閣 發賣

ビルマの資源と産業と貿易

大 場 忠

一 ビルマ資源の展望

ビルマは農業國に屬し、工業國たり得るには前途遠くである様に觀察せられる。自國民の欲求するものも、他國人の手を経由して購ふて居る。自國產物を海外に賣却するにも他人に依存して居る。ビルマ國民經濟の不振の因ここに在る。

一九三九―四〇年度のビルマ外國貿易を見るに、再輸出を含む總輸出額は、五億五千六十萬留比（換算相場百圓建八十留比）にして、其のうち英國および屬領に輸出したる額は、四億八千二百五十萬留比であるに對し、諸外國に輸出したる額はその六分の一に相當する五千八百六十萬留比である。ビルマの輸出貿易は印度、英本國、海峽殖民地、セイロン、日本、獨逸に依存して居る。就中對印輸出は三億三千萬留比である。同年度の輸入を見るに、總額二億五千百六十萬留比の中、英國ならびにその屬領より輸入したる額は一億九千五百二十萬留比にして、其他の諸外國よりの輸入は五千六百四十萬留比であつた。ビルマの輸入は印度、英本國、日本、米國に依存して居る。輸入に於ても印度は一億四千萬留比を供給して居る。

ビルマ資源の處理上隣國印度は不可分の關係に置かれて居る。ビルマは世界新動向の波に乗り、一新階段を造らんとして居る。而して大東亞共榮圈の一翼たらんとして居る様であるが、印度との貿易關係の不可分なる點、およびビルマの貨幣制度は印度の金爲替本位制度にリンクして居る點に着目すべきであらう。

ビルマ資源は前途洋々たり、地下の埋藏數量は勿論のことなるが、天然に恵まれた國として、海陸物産の開發増産の如何によりては、殆んど無盡藏たるの魅力は蓋し永久と云ひ得るであらう。

技術的指導および取引改善その宜しきを得れば、ビルマ一千五百萬人の購買力發揮は想像以上のものがあらう。ビルマ資源の展望は其外貌を示したるに過ぎぬ。讀者これによりビルマの一端を知り、須らく實踏調査せられんことを希ふ。

一 鑛産資源

英本國のビルマ資源開發に對する施策なるものは、英系資本の投下から見ると、必ずしも積極的な方法手段を講じ居るものとは思はれない。或る論者は、英國としては帝領内資源開發に對し計畫を樹て、所謂濫掘による世界市場相場の変動を未然に防止し、最も合理的の施策によつたため、性急にビルマの資源を開發せず、國家百年の計畫に基き、遠き將來の資源に備へたとも思はれる。

英帝領内の鑛山資源は、悉く倫敦に於て公定相場を建て、これにより各方面に供給して居る。價格統制を狙つて不自然なる相場變動を防ぎ、投下資本の利潤の均衡を得せしめんとする點、吾人に示唆すること多い。ビルマの鑛山經營は「パーマ・マイニング・アクト」により處理せられて居る。

(文獻) Report on Mining and Mineral Production in Burma for the Year 1938.

一九三七年度はビルマ鑛山界のレコード破りの年柄であつた。價格上騰し、作業狀況は最大率を發揮した。左に公表せられたもの琥珀、金、銀、翡翠石、石油、錫、ウオルフラム、亜鉛、銅、ニッケル、鉛の統計を示す。

一九三七年度生産統計

	ビルマ、シヤン、ステ ート、カレンニを含む	帝 領 域	世 界	ビルマ 帝 領 域 %	ビルマ 世 界 %
琥珀	三・五CWT.	—	—	—	—
金	一・〇〇三オンス	一九,五〇〇,七五五オンス	三〇,六六八,四四三オンス	〇・〇〇二	〇・〇〇三
銀	六,一〇,〇〇〇オンス	四四,三三〇,〇〇〇オンス	二六,九七,〇〇〇オンス	三・四	二・二
翡翠石	二五五CWT.	—	—	—	—
石油	七,八四八,〇〇〇BLS.	四四,一四一,〇〇〇BLS.	二,〇八,四〇四,〇〇〇BLS.	一・六	〇・六
石	七,四四一噸	一〇〇,〇〇〇噸	二一〇,六四噸	七・六	三・五
錫	四,九七噸	五,九八噸	五,三〇噸	八四・五	一四・五
ウオルフラム	三,五三噸	二九六,三六噸	一,六〇,四七噸	二八・九	四・四
亜鉛	七,七三噸	四七,四七噸	二,二九,七三噸	〇・七	〇・四
銅	四,〇〇噸	一〇,一八五噸	一三,〇〇噸	一・六	一・〇
ニッケル	六,九四噸	五,五八噸	一,七二,二七噸	一四・三	四・六
鉛	—	—	—	—	—

次にビルマ鑛山資源の産地につき概説すれば左の如し。

(1) 明礬 (Alum) アルム・セールはサルウィン地方のユンザリン河並にタヴオイノミッタ河に發見せられたと傳へられたるも作業開始に至らぬ。

(2) 琥珀 (Amber) 琥珀の鑛山は上チンドウイン地方 (26° 18' 30", 86° 32') メーリガンに在り、ミチーナ鐵道沿線モーガンク・ステーションより入るが便宜なりと稱せられる。この地はフーコング・ワレイに位して、住民としてはカチン族が住んで居る。

B.C. 二〇六年—A.D. 二六五年、ハン三朝時代より知られる有名なところである。一九二一年調査ストワード博士の説によると、第三紀下層時代に屬するものである由で、褐炭層に双生する藍色粘土床表面より深さ二十呎乃至四十呎下位に存在す。ビルマの琥珀はバルチック琥珀より堅くして重く、色は黃色又は赤味を帯びた茶褐色のものである。

(3) 安質母尼 (Antimony) ビルマにはアンチ鑛山は各地に散在して居るが、中にもアムハースト管區タブユーのものは著名である (15° 31'; 98° 31')。大なるものは長さ六百呎、幅二十呎と稱せられて居る。その他モング・スー・ステート一時一千噸も採掘せられたことがあつた。Tawngpeng State にては一九三八年一千二百噸採掘せられた。其分析表によると一噸に付鉛八一・七六%、アンチ一七・五九%、銅〇・二二%、銀二・九三オンスである。

(4) 石棉 (Asbestos) サガイン地方にあり、其他の地方にも産出するが毛足多少短とせらるゝが採鑛せられたならば一種有望なるものであらう。耐火建築材料として注目すべき一資材である。

(5) 重晶石 (Barites) ビルマには七ヶ所發見せられた。

(6) 建築土木工事用材 大理石、片麻岩、鐵、礬土、石灰石、踏臺石等多量あり、其一ヶ年産額二、五四

五、〇九八噸にして、價額は二、四五四、六三六留比。(一九三八年)

(7) クローム鐵鑛 タイメウ管區アラカン・ヨーマに產出し、其他六、七ヶ所に發見せられた。

(8) 石炭と亞炭 北シャン・ステートに產せらるゝと稱せらるゝも良質ならずと傳へられる。

(9) コバルト タウオイ地方に發見せられ、一九三八年ニツケル鑛石と共に輸出せられた。其中に六・六九%のコバルト含有せりと。

(10) 銅 シャン・ステートを始め十七ヶ所に發見せられた。一九三八年に六六、四九二噸の銅鑛發掘せられ、分析によると噸當り六・六オンス銀、七・七%鉛、一・九%亜鉛、三・二七%銅含有せりと(ポルドウィン鑛山)、同年六、三〇〇噸のバーマ・コーポレイション株式會社の報告によれば、銅四二・七四%、鉛二五・九八%、銀噸當り七〇・五五オンスと傳へられる。

(11) 金剛砂 (Corundum) カタ管區のモコックに產出す。

(12) 寶石 寶玉中特に有名なるものはルービーにして、ビルマのルービーは世界的である。產地枚舉に遑あらざる様なり。

(13) 金鑛 金はビルマ全圖至るところに發見せらるゝが成績見るべきものなし。パモー地方下部チンドウイン地方八ヶ所、上チンドウイン地方十數ヶ所、カィター地方三ヶ所、マダイ地方メチナ地方二十八ヶ所、パコック、プローム、サルウイン、シャンステート、モンロング王國、ケントング王國十數ヶ所にして、筆者の有する金鑛は二十二金の某所に在る。今日多量に存するにもかゝらず成績悪しきは、土民の保守的採取に委任する

がためなりと思考す。専門的技術派遣と近代的採取によるところあらば、ビルマは世界稀れに見る金産國なりと推定するところなり。

金鑛所有の各藩王はこれを公開せざることゝ、英本國としてはこの資源を當分保存せんとの深謀が當國金鑛に關する世界人の不認識のためであらう。

「シャン・ステート」と雲南との境に支那人にも英人にも世界何人にも未だ曾て統治せられたことのなき、ワー(WA)ステートと稱する國がある。酋長七八名居り統治し居るが、首狩を常習として外人の入國を許さぬ。この國の話聞くに、母指大の砂金、川底に發見せらるゝと、蓋し砂金にあらずして脈を形成し居り、外皮が崩壊し川底に流れたるものにあらざるかと想像せらる。先年英系會社はこの地方に對し、理藩狩のため數百萬金を投じ道路を建設したことが傳へられた。十呂盤高き英人のこの行動、單なるものと思はれぬ。おとぎ話か眞物語か、時が解決するだらう。

(14) 黒鉛 (Graphite) マンダレイ地方、ヤメテン地方、メチナ地方に富めりと傳へられる。

(15) 石膏 (Gypsum) タイメウ、ミンブ、パゴック、マグキ、ミンデヤン諸地方に産す。

(16) 鐵 ビルマには五ヶ所に産する。貧鑛に屬す。採算は一に懸つて運搬の便如何によるものゝ如し。

(17) ヒスイ (Jadeite) 翡翠は世界的に有名なり。ミチナ管區トーマーは有名である。(25°—32°—96°—17°)

一ヶ重量七ポンドより十一ポンドのものが發見せられた。エメラルド・グリーン色と其他薄青色のものとあり。其他十數ヶ所に産す。

(18) 陶土 (Kaolin) パコック、シュウエーポー、タトン管區にあり。

(19) 鉛と銀鑛 ビルマにはボードウイン鑛山と稱するものあり。蓋し代表的鑛山である。銀、鉛、亞鉛含有量に於ては世界稀に見る大鑛山と稱せられる。ラングーンより北方五百四十七哩半のところにある長さ八千呎幅四五百呎のものである。然るに資本一億留比投下せられたる大規模のものである故に、埋藏量は僅かに十ヶ年間に盡くるならんと推せらる。シャン、ステートロクソーク國王の所有鉛鑛は、英技師の調査によると三十萬噸と稱せらるゝも、余の實踏埋沒地域から推定するに實に廣大なるもので、英技師の報告とは反對に有望なりと察せられた。先年國王より其經營委任せられたりしが邦人の投資家なく今日に至つた。倫敦分析所鑑定によれば、鉛の含有量六〇%なりと云ふ。現存ビルマ鉛鑛山中の屈指のものなり。ビルマ鉛鑛を解説する參考として、一九三八年六月三十日探掘せられた四七二、八〇二噸中精鍊せられた結果を示せば、

精鍊鉛	七七、七〇〇噸	銅マツト	六、三〇〇噸
同銀	六、〇五〇、〇〇〇オンス	ニッケル	三、三四五噸
亞鉛コンセントレイン	六五、九八二噸	安質鑛	一、二〇〇噸

其他數十ヶ所あり。ビルマは鉛、亞鉛、銀、ニッケルに富む世界有数の産國であらう。

(20) マンガン鑛 モコック、カータ、ミシヂヤン、メーテラ地方に産す。

(21) 雲母 (Mica) 電氣工業上の必要品なり。ミチナ地方に多量に産し、白、ルービー、ブラウン色の三種あり。一尺四方のもの、良質のものと報ぜられた。取引斡旋を本邦に求めたりしに引合なく、其中に輸出禁

止となつた。

(22) モリブデン (Molybdenum) モリブデン鑛はテナセリム地方の錫、ウオルフラム鑛と双生し發見せらる。又は雲母と共に發見せられた。脈のものもある。タヴオイ地方にも産す。總じてウオルフラム鑛山に見出されて居る様である。

(23) ニッケル 鉛鑛の存在するところにはニッケル鑛あり。ナムツー鑛山より一九三七—一九三八年に於ては四、三二〇噸—三、三四五噸採取せられた。

(24) オーカー鐵 (Ochre) ミンヂヤン地方のパンベには多量あり黑色を帯ぶ。三十呎の厚さと稱せらる。

(25) オイル・セール アムハースト地方又はタイ、ビルマ國境にあり。(16° 46'—98° 28', 16° 28'—98° 33')

Hichara Basin のオイル・セール中のクルード・オイルに關するカルカッタ地質調査所の分析によれば左の如し。

水	50°	170°C	42%
油	リ	—	5%
同	170°	230°C	0.17%
同	230°	270°C	1.50%
同	以上	270°C	41.00%

(26) 石油と天然瓦斯 ベグー・ガルフ一帯の地方、次ぎにエナンデヨング (20° 27'—94° 55') の油田は目下開發せられて居るビルマ油田中代表的のものである。

(1) Yenangyaung Oil-Field (20° 27'—94° 55') 油田の廣さは六哩、幅一哩のもので、1887年より Burma Oil Co. により

- て掘出せられて居る。1937年には 120,926,620ガロンに及んだ。2910ヶの油井あり。中手掘式180油井と傳へられる。
- (2) Singu Oil-Field (20°56'; 94°54') 1937年の收穫量は 62,849,366 ガロン。568 油井あり。
- (3) Lanywa Oil-Field (20°58'; 94°49') 1937 年の量は 17,975,051 ガロン。
- (4) Yenangyat Oil-Field (21°6'; 94°51') 1937 年の量は 6,728,788 ガロン。油井數 257。
- (5) Indaw Oil-Field (23°48'; 94°30') 1937 年の量は 2,500,000 ガロン。
- (6) Minbu Oil-Field (20°5', 94°54') 1937 年の量は 3,750,000 ガロン。
- (7) Padaukpin Oil-Field (19°22'; 95°8') 1937 年の量は 1,878,868 ガロン。油井 39。
- (8) Akyab District (20°19'; 93°3')
- (9) Pyaye (19°12'; 95°10')

タイメウとピクイにて鑛産せられ、セメント製造の燃料として使用せられて居る。この天然瓦斯の存在はセメント工業を有望化して居る。

- (27) 白金 上下チンド・ウイン地方に産出す。金との双生に屬せり。

- (28) 食鹽 サカイン、シエウヘーボ、シヤン・ステート、ミンヂヤン、カーク、ペグー、くンザダノロ、タイメウ地方に産出す。ビルマ内地鹽の分析表

FE ₂ O ₃ AL ₂ O ₃	0.20	CA CL ₂	6.83	MGCL ₂	3.17
NACL	78.02	KCL	7.35	H ₂ O	5.60.....101.17

- (29) 硝石 シエウヘーボ地方並にシヤン・ステート、ナム・トック (19°59'; 97°1') 次ぎにロクン・タ王国の Yan Tawng (21°9'; 96°39'), Yindaw (20°43'; 95°56') (ヤメテン地方) に發見せられたり。

- (30) 曹達 メーテラ管區のウンドウインに一九三七年には九千噸生産せらる。

(31) 錫とタングステン カウセイ、ヤメテン、カレンニ、タトン、アムハリスト、マグイ地方に産す。一九三八年産額、錫七、〇五七噸、タングステン五、三四二噸、ビルマには錫とタングステン多量に埋藏せり。產地數十ヶ所。

(32) 亜鉛 鉛との双生にしてポードウイン嶺山にて一九三七年、一九三八年に精鍊せられたるジンク、コ
ンセントレイトの數量は七八、三一三噸、六五、九八二噸ありたり。

叙上はビルマ嶺山資源の概説なり。文獻左の如し。

文獻(1) The Mineral Deposits of Burma (Nov. 1938).

(2) Report on Mining and Mineral Production in Burma (1938).

二 林 産 資 源

文獻として一九三五年出版 Hand-Book of Forest Production on Burma. を推挙するが、附屬表として各種用材の Strengths of Timbers. に關する林業研究所の試験表あれど、廣汎にして學究的に失するに付き省略し概説するに止めたり。

ビルマは別名 Land of Green と稱せられ、森の國、常夏の國にして新綠常に新にして印度に比せば恵まれた國であらう。チーク材を始めとして建築用材を産出し、其他薪炭用五十種の竹材あり、特筆すべきものとして(一)製革用材、(二)染料用材、(三)製紙用材、(四)樹脂、(五)油、(六)ゴム、(七)ファイバー、(八)漢法藥用材に分類解説す。

(1) 製革用材 タンニン用材としてはビルマには果實、木皮、葉の三種あり。最も著明なるものはマングローブ (Mangrove) にしてタウオイ管區テナセラムに産す。年産五千噸である。

取引市場は蘭貢なれど、採集、買付、植林の方法を改善すればビルマの自然力を利用し恒久的な資材と成し得られる。技術派遣による買取運搬の改善が必要である。我邦皮革工業上研究する一緊急事項であらう。

(2) 染料用材 樹木又は植物より製造せらる。ミンブ、ブローム、メイテラ、ヨー、下チンドウイン、ピシマナ、シユウエーボー等に産す。主としてカツチ (Cutch) が愛用せらる。次ぎに赤、黄色素材としてニバセ (Nihase) と稱する木根あり。産地としてはマグウエ、ミンブ、パコツタ等の地方が擧げられる。

ジンネ (Peinne) 又は (Jaca) と稱する樹は僧侶の黄な法衣の染料に供せらる。其他眞赤色素の用材あり。

日本として染料の自給自足の域に達したとも思はれぬ。獨英佛の染料に依存せず、大東亞共榮圈内に産出する各種色素藥材等の大研究所を創設し、研究を進むることが必要ではあるまいか。特に此點強調するものなり。

(3) 製紙用材 竹は製紙パルプとして有望視せられて居る。次ぎに木の中パルプ用材として土語 Gwe, Yemane, Man-Letanshe, Jelpen, Petwaing, Baing, Didu, Wetslaw, Thapan, Nabe, 等が數へらる。シャン・ステートの Thale (Paper Mulberry) など數量から見るも有望である。

其他草としてラングーン・バセン間、其一ヶ年數量十五萬噸と推算せらる。乾草あり。パルプ用材に關しては英本國も注意せず、土人の製紙に全々委任し居る有様なれば知られて居らぬ。

廣大なる空地を有するシャンステートに製紙パルプ材の植産事業と平行しこれを育成するならば、當國の地味

氣候から見て無盡藏の資源が開發せらるゝならんと想像せらる。

ビルマの自然力の利用と増産とは我邦資材の自給自足と彼國の福利増進と一致するところなるべし。

(4) 樹脂

(1) Akyaw	便途	香料、藥用 (肺病)
(2) Che	同	黑色のもの
(3) Ge	同	黄色ガム、アラビヤゴムに類似せるもの二〇〇〇呎の森林地帯にあり。
(4) In. (Dipterocarpus Tuberculatus)	使途	香料多量産出す。
(5) Kanyin	同	油、燃、燈火用
(6) Latpan	同	下痢劑
(7) Lunbo	同	アラビヤゴム
(8) Okshit	同	ペントと混用或はセメント用
(9) Tayet	同	八〇%樹脂、一五%ガムを含む。
(10) Cashew Nut	同	ワニス用
(11) Thingan	同	藥用、ワニス用
(12) Thitsi	同	漆、有望なり。採取の方法惡しく本邦との取引引合はぬが業者の研究不足を遺憾。シャ ン・ステート高原は最有望なり。

土人に對し採取方法を傳授し、一方植林を計畫せば有望なりと察せられる。

(5) 油

(1) Tung Oil

現にシャンステートに英系資本により經營せられて居る。雲南地方のそれと同様有望にして有利なる事業である。

- (2) Gangaw 七〇%の油を有す。石鹼製造に供し得られる。
- (3) Gyo 34.5/38%の油を含む。髪油用
- (4) Kalan リューアチスの薬用
- (5) Kaya 同
- (6) Kalwa ランアの燈火用、髪油に供せられる。
- (7) Kyetsu カスターオイル油
- (8) Meze 石鹼又は食料に供せられる。

其他キヤンフアー、薬用、リューアチス用に供せらるゝもの數種あり。

(6) ゴム 下ビルマ並にバマ地方は、ラバの栽培に適し、既に有望事業として存在して居る。廣大なる耕地面積と相俟つて好望の事業である。

(7) ファイバー (Fibres)

- (1) Akyaw (Aquilaria Agallocha) テナセリム地方或はマグイ地方の産にして木皮は繩が作られる。
- (2) Bambwe (Careya Arborea) 皮は袋を作るに適す。
- (3) Dwabok (Kydia Calyeina) 皮は繩を作るに供す。
- (4) Hmyaseik (Antiaris Toxicaria) 或る地方に多量に産す。内部の皮は袋を作られる。土人は木の汁を毒矢に使用する。
- (5) Mayo Silky Fibre が作られる。
- (6) Minbaw (Caryota Urens) 繩、ブラッシェ、箒の製造、魚釣糸等も出来る。
- (7) 其他強きファイバーを作られるものとして

Nabe (Lannea Grœndis, Palan (Banhinia Racemosa)

Petya (Girardinia Heterophylla) Shaw (Sterculia)

Tan (Palmyra Palm)

(8) 漢方醫藥用材 非常に豊富なる漢方藥用材あり。其種類は草根木皮百六十種を算せられる。熱病、癩病、收斂劑、冷却劑、水腫、水氣病、疝痛、疝氣、下劑、鎮靜藥、コレラ、反對刺戟劑、膽汁系病、發汗劑、潰病、腫物、赤痢、虛弱病、咳病、胃病、喘息、亞片解毒劑、強壯劑。

因にビルマ東部サルウィン河以東、ケントング王國を中心として多量の亞片栽培せらる。波斯產のものより良質と稱せられる。用材の學名多岐なれば省略す。

特筆すべきものは Kalaw に關する解説である。この種子より Chaulmugra Oil が採取せられる。癩病並に皮膚病の治療に使用せらる。ビルマに於て著名なるものは Tarakogenos Kurzii である。この樹は高さ五丈乃至八丈に及び周圍二尺乃至四尺にして、チンドウイン、ミチナテナセリム、シヤン・ステート(ケントング王國の領内に三ヶ所あり筆者實踏其所在地を知る)地方の常綠樹林内に可なり廣く繁茂して居る。時として群生の地方もあり。下ビルマ地方に産するものは三、四月頃開花、上ビルマ地方は一ヶ月遅れる。實は次年の八月或は九月頃熟す。

結實は不確實にして二三年毎に結ぶ。一本の樹より多きは三百の實が得られる。この樹は試験によると熱帶地には栽培可能とせらる。我邦は天刑病者の多き國で、幾多の人生上の悲劇を見る。社頭數多の同胞が罪なきに己を忘れ、合力を求め居る様を見て同情禁じ能はざるものあつた。幼少の時、神參詣の砌りこれらの様子を見て、生長したならばこれを治する藥を求め救濟せねばならぬ様な責任を幼な心にも痛感して居つた。爾來幾十星霜を送つた筆者は、ケントング國王に面會せんとして同國經濟事情調査のため一九三一年二月シヤン・ステート、ケ

ントング王國に入つた途上、偶然にも領内ダーク、バンガローに當國の太子サオ・コン・タイ殿下並に一族と合宿する機會を得た。(ケントング王は山田長政の家臣の子孫なりと云ふ)談、盡くるところを知らず、鶏鳴の時に及べり。談偶然にもこの奥山に天下秘藥とも稱せらるカローシーズに及ぶ。殿下は自領内の産なるが、この「カロー」が相當にある。それを精製して注射劑にする方法なきが、我が國土人はあの實を食し或る程度の癩病を治して居る。バンガローの窓を開き、あの山のあの高き樹は云々と示された。翌朝、殿下は土民の長老に命じ、實を興へられた。直ちに我邦の内務省衛生局に送附し、研究方を要請せしが値段の點により取引を見ず今日に至つた。

國家的事業としてこの秘藥の研究を進まれるならば筆者のみならず救生の慈善事業とならん。

ビルマと云ひ、印度と云ひ、漢法藥多量に存する國なれば、是非醫藥資料調査員を派遣せられんことを當局並に業者に要請する次第である。

三 農 産 資 源

ビルマは米の國とも見られる。天然力に依存し施肥、除草せずとも休閑地の利用によりて相當な成績を收めて居る。米の作況と價格とが當年ビルマの經濟を支配す。一九三九年六月末調査によれば、收穫七、七九九、九〇〇噸、一ケ年の過剩輸出米は三百萬噸乃至三百五十萬噸、これ西貢、バンコック輸出米の合計數量に匹敵するものなり。毎年九月の平均手持米高は六十萬噸内外とす。その他にては胡麻五一、〇〇〇噸、生棉花一八、七〇〇噸、落花生一八〇、〇〇〇噸、其他白豆等あり、良質にして一時日本は四〇、〇〇〇噸輸入したることあり。其

他小麥、小豆、煙草、砂糖あり。

四 水産資源

各種魚類、眞珠、高瀬貝、スツポン等あり。

二 ビルマ産業の鳥瞰

ビルマは統計のなき國である。當國の調査報告の困難がこゝにあるのである。ビルマの事情が日本或は海外に紹介せられずに終つた理由は全く斯様なところにあつた。ビルマは長い間大印度の一州として統治せられ、印度政府統計局の一部として取扱はれた。先年ビルマが印度から分離統治せられ、各種統計も一單位として編纂せらるゝだらうと期待せられたが豫算の關係上實行せられず、特に今次の事變以來は秘密主義となり、統計の公開が一部封ぜられ、今日は經濟、貿易の事項に關するものすら眞相を知ることが困難となつた。こゝに公表するビルマの産業も統計的解説は不可能のため Cottage Industries Burma を中心として其他は筆者の實踏見聞に基き説明することゝせり。要はビルマの産業は自給自足し得るか、本邦品の輸出にどの程度の影響を與ふるか等々、我が業者の參考資料たり得れば可なり。

一 ビルマ産業不振の理由

英本國のビルマ産業政策は那邊にあるか知る由もないが、ビルマの現状を見れば大様想像せられるのである。ビルマには大學あるに拘らず、工業または商業の學校がない。若し英國がビルマを印度同様に育成しようとの考

方ならば、ビルマの青年子弟の養成を行ふ教育機關一つ位は設置する必要あらうが未だに設けられぬ。偶々民間の要望あり二三の織物指導所を増設したるに止めた。例のデイベイド・エンド・ルール主義に平行し、民は知らしむ可らず治むべしで、ビルマを永久に農業國として置き、英品販賣の一市場として封ぜんとする政策に依るものであらう。一説には、ビルマは地理的に見て印度と違ひ安全地帯と見る譯には行かぬ。それ故にビルマに大規模な恒久的産業設備を設けることは危険であるとの見方により、英國はこれを放任し置くとの議論もある様だ。

巷間傳へられるところによれば、ビルマの東邊ムールメン市に米國人が相當廣大なる土地を買収し、其地上に工業學校を建築する計畫を樹て起工に着手せんとしたところが、このことかビルマ政府の知るところとなり、直ちに其計畫の中止を命ぜられた。遂に華府對英京の中央政府の問題となり、結局するに米人のこの計畫を中止すること、ビルマ政府は計畫上に支辨した一切の經費を支拂との條件にて手打となつた由。ビルマの産業なるものはビルマ政府なり英本國政府なりがかかる政策を堅持する以上其發達は期せられぬであらう。

次ぎに來る問題はビルマの勞資問題である。端的に云へばビルマの政治は英人の手に、商權は印度人の掌中に在ると云ひ得る。ビルマには比較的大資本家が乏しいのである。然らば小額な資本を集合する株式組織又は合辦組織にして、ビルマ人の事業は出来るであらうかと云ふ疑問が起るが、ビルマ人は家族制度下にあるが如き生活を營んでゐるが金錢の問題となると金錢に親子なしの思想が極端で、兄弟と雖も互に出資して事業經營などは殆んど困難である。それからビルマ社會人の株式に對する通念は如何と云ふに、先覺者の失敗は投資を危險視するに至つた。今日は中々應募しない。ビルマ人同志の資本の集化の困難なることは、筆者が先年ビルマ商業聯盟創

立の體驗に徴して明なり。このビルマの事業資金化困難なることはビルマ人同志の事業が起らざる原因で、産業不振の理由である。

勞力問題は如何と云ふに、現在の勞力の大部分は印度勞力によりて占められて居るが、印度人、ビルマ人の勞力の能率の點を見るに、ビルマ人の印度人に及ばざる點がある様だ。ビルマの勞力を日本の勞力に比較すれば六對四である。露骨に云へば、ビルマ勞働による事業は將來は保證の限りにあらざるも、現在は覺束なかつた。ビルマ事業の勞力は外國輸入に俟たねばならぬと云ふ結論となり、比較的高値となるのである。總括的に云ふならばビルマに於ける勞力に對しては注意を以てすることである。最後に動力輸送力の比較的高値になること、工業資材、機械或は部分品と原料は海外の供給に依存する關係上、生産をなすことは高値となる。叙上の諸點を理由としてビルマの一般産業の普偏化は前途遼遠なりと斷案が下される。

將來ビルマにて事業を企畫する人はビルマ人の性能と印緬勞力の綜合と合理化の諸點に涉り深く意を注がねばならぬ。

二 ビルマ重要産業

(1) 精米業 十數年以前のビルマ精米業は英、印、獨、支の資本系統により經營せられ、相互に競争した時代で、蓋しビルマ精米業史の全盛な時代であつた。然るに時代の推移に伴ふて英資本の前には悉く屈せざるを得ずして遂に英系ステール・ブラザーに統一せらるゝに至つた。ビルマ精米の覇業は全く同社の掌中に歸したが勝者の悲哀なるものは彼の利益壟斷により反對の氣勢を見るに至つた。即ち近代的大企業ビッグ・ミルに對抗し

て中小精米所スモール・ミルの創立を各所に見るに至つたが、機械の入手難は當分實現を失望せしめて居る。

將來ビルマ米買付上考へさせられることは、この中小精米所の分散が果して成功したときは産米の格付規格の不統一は輸出米の品位を低下せしめることになるが、取引機關の合理化と産米検査機關の設立は必要であらう。其成行が注目せられて居る。

ビルマ精米業は企業そのものから見れば、年々八百萬噸内外の米が精米せられて居るから世界の偉觀である。將來「ビッグ・ミル」と「スモール・ミル」との對立如何の問題は、ビルマの精米事業上に投ずる明暗の影であらう。

(2) 製材業　ビルマはチーク材の産地としては隣國タイ國に亞ぐ産地である。其他多量の寔業並に鐵道土木用材ありて、製材事業も精米事業に次位する事業にして、近代設備によることは勿論である。資本から云へば英印に獨占せられて居る。

(3) 製油事業　エナンジョンにはB・O・Cと云ふ英系大會社あり、小規模な手掘油井を除く外はこれ亦殆んど英系に獨占せられて居る。近代設備のものでクルード・オイルは地元より鐵のパイプによりラングーン郊外「シリヤム」に移送せられ、こゝで更に精鍊せられて居り、相當偉大なる設備だと稱せられて居る。

(4) 鑛山事業　ボールドウィンのナムツ・マインの鉛鑛山は投資額から見てもビルマ第一の鑛山で、資本は一億留比と稱せられ、其設備から見てもエナンジョンのB・O・Cと相並ぶ横綱格であらう。其他錫、ウオルフラム鑛山大小數十ある。

(5) 石鹼工場 小規模の洗濯石鹼工場がラングーン市郊外に十數ヶ所あり、未だ自給自足の域に到達せぬ。時局柄曹達灰等の資材不足で經營難に陥入つて居る。

(6) マツチ工業 ラングーンに大小中内外の小工場あり、自足せられ得るであらう。しかし多少カルカッタ・マツチが輸入せられるゝ程度である。其他の外國マツチは輸入望薄となつた。最初は瑞典、日本の技術によつたが遂に工場側は其技術を體得するに至つた。

(7) ゴム、カンバス靴工業 日、印系の資本にて經營せられ二つの工場あり、何れも低級のものゝ製造に専念する相當なものである。邦品輸入に相當打撃を與へた様に觀察せられた。

(8) セメント工業 ビルマの天然瓦斯を利用する唯一のセメント工場あり、年生産額六萬噸を目標に設立せられた。製品は初め思はしからぬと傳へられたが漸次改善せられ、今日は相當のものとなつた。株式は公募に附せられ、英印緬の綜合資本によりて成立した。特色は株式の割當が印緬のセメント販賣人をして行はしめたこととは製品の販賣上至極妥當を得、良好の價格を維持して販賣せられて居る點注目すべきものであらう。この工場の出現によりビルマはセメントの自給自足が出来た。従て邦品、ポートランド・セメントの販路は塞がれた。

(9) 莫大小工業 ラングーン郊外インセンに一大莫大小工場がある。資本百五拾萬留比投ぜられ、面積、設備、従業員の點から見れば印度を含む一二を競ふ工場とせられ、日本人技師これを指導し、普通メリヤス一年二十五萬打以上が生産せられて居る。就中印緬業者の從來行はざりし「フアンシー」もの「キワモノ」の生産を行ふに至り邦品の輸出に甚大なる影響を與へて居る。

序に説明せねばならぬことは、ゴム靴の工場と云ひ、この工場と云ひ、日本の技術がかくあらしめたと云ひ得られる。それ故に將來共榮圈の諸邦に對し、我國として技術派遣を無制限に行ふべきか否やの問題は豫め計畫性を有する根本理念の持合せが絶対に必要である。特に朝鮮半島、支那、臺灣の産業計畫、日本本國の計畫と對照し不動悠久而も伸縮性を有する大東亞共榮圈内に一大綜合産業計畫を樹立することが缺く可らざる事項であり、其企畫の根本理念は、(一)圈内現存産業機關の調査と調整、(二)現地の地理的特徴と政治との検討を究め、最も有効適切に處理すべきものであらう。

獨りビルマとせず、共榮圈諸邦は政治的に自主、自治を念願として居る。從て産業の自主的開放、經濟の自給自足を希望して居る。彼の歐洲大戰に獨伊が世界人の期待以上に戰局を好轉せしめ居る理由と原因は、獨軍の精銳が獨り物を云ふて居るのでない。彼「ヒットラー」の理想、即ち其民族をして所を得せしむと云ふ崇高なる理想を戰局進展の隨所に實行し行くところに嚴存して居るのであることに着眼せねばならぬ。されば海外技術の派遣問題に關しても極めて廣義なる意味を以て臨むべきであらうが、然し無統制のまゝこの重要問題を放任し置くことは母國産業の機密が輸出せられ、延ては自國産業の危機を招くことになる。然しながら技術派遣の封鎖は機械並に半製品と化學藥品の販路を失ふに至る。日本が技師を送らずとせば他國歐米の技術によることになる。それ故に工場の設計は技術者自身の國から全部のものが購入せらるゝことになる。かゝるが故に技術派遣を禁ずると云ふことは賣れるものまで封ずると云ふことにもなる。一方先進國として大に圈内諸邦を誘掖補導すべき立場にありながら、これをしも封ずると云ふ事は大乘的に考へねばならぬことである。かゝる將來の「デリマ」は未

前に顧慮し置くことが賢明であらう。この點を指摘し共榮圈確立上の畫龍點睛の用意あるべきことを強調する次第である。技術派遣の問題に次ぎ、最近半島、上海地方に新工場が設置せらるゝことであるが、この問題も内地産業と對照し均衡を維持せしむること、並に半島人及び上海土着民の權益をも斟酌し取扱ふべきものである。この意味に於て海外に對する技術者派遣と海外市場に於ける新工場設置問題は現今我が國に於て取残された問題であるが、其運営の如何によりては本邦産業、貿易の致死劑たらんとす。企畫院に於て本問題を本格的に検討せられんことを要請す。

(10) 手織機工業¹⁾ ビルマ手織機臺數は十萬臺と稱せられて居る。ビルマ家内工業課は創立茲に十五年を迎へたが着々として業者の指導上好成績を擧げて居る。アマラプーラ・サウンダース・ウエーヴィング・インステチュート (Saunders Weaving Institute, Amarapura) はビルマ機業指導の總本山であるが當局監督の下に従來の三倍能率増進に成功したと傳へられた。

即ち新型織機と共に Beaming and Sizing Machine, Winding Machine, Bobbin Winding Machine を布設した。この指導により業者は生産増進したと云はれて居る。之により業者は一層刺激を受け活況を呈するに至つた。機業中心地として左の諸地方が擧げられる。Amarapura, Hanzu, Shweadaung, Padaung, Seikkun, Chiba, Budalinpegu, Henzada, Tharrawaddy 而してこの地方には新式設備が加へらるゝに至つた。

ラングーン市には Burma Handloom Textile Depot あり、販賣と宣傳を行ふて居る。一方ラングーン郊カマニ (Kamayut) には織物試験所あり、中央政府の施設機等と協力、上々の成績を見るに至れりと報ぜられた。ビルマ

1) 以下一九三八年六月ビルマ政府公表の調査書參考とす

手織機工業の發達増進しつゝあることは外國より輸入せらるゝ綿糸、スフ糸輸入統計表よりも推察せられる。手織機生産はビルマ全消費數量の二割五分と見られて居るから、推算數量は一ケ年生産五千五百萬碼はあるであらう。

ビルマ政府は地方業界の懇望を入れ、技師派遣制度を採用することとし、一九三八年四月十九日ウー・ポー・チャンの任命を見た。技師の指導方針は、(イ)會社又は個人生産品の試験、(ロ)生産品の標準化指導、(ハ)指導員派遣の斡旋と織機の使用宣傳、(ニ)生産品の市場開拓と販賣斡旋等である。

サウンダース・ウエーグ・インダ・インステチュートの事業成績を見るに、創立以來二十四年の月日を経て漸く成績の見るべきものあり。(イ)改良織機の使用により技術員の養成、(ロ)養成員を各地に派遣して技術の指導を行ふ、(ハ)技術員をして工場或は學校に於ける監督に當らしむる者の養成を行ふて機業者の經營指導等に當り順調に好成績を見て居る。最近ウー・ポー・チャン氏の後繼者として、ラングーのB・H・T・Dの支配人タリシウー・コ・コ・デー氏の任命を行ふたが、同氏は筆者の友人であり元藏前の東京高等工業學校卒業生にして豊富なる知識と造詣を有する好箇の紳士である。因に同氏は各方面より大に期待せられて居る。生徒の數も増加し當所の内容も面目を一新するに至つた。アマラプーラの指導員養成の一般を見るに左の如し。

(a) Courses of Instructions 理論と實物教育の綜合、上下の二部に分つて教育を施しつゝあり、機業の勞力節約、意匠、染色、整理等の教授。

(b) Equipments 本年よりはデヤカード式織機を布設し、紋織又は雜多な模様を有する意匠のものを織出

すことを教育す。日本より改良織機を購入し試験に成功した。

(c) Admissions 入學希望者は前者の四十五名に對し百十名に達した。其中四十九名は女子並にバモー管區の二名のカチン人ありたり。現在學生を見るに

部 級 上		部 級 下	
計	子	計	子
	男		男
	女		女
	(有給者)		(有給者)
	(無給者)		(無給者)
	(有給者)		(有給者)
	(無給者)		(無給者)
二八名	六名	四四名	一四名
一三名	二名	四一名	一一名
四九名		一一〇名	

中卒業生六名あり

中修了者四六名

これらの學生は寄宿生として收容せられ、所内にはフットボール、ホッケー、テニス、チンロン等運動設備あり、保健状態は概して可なり。

(d) Experiments (1) ビルマ古代の製織に "Acheik" と稱する一種の製織方法がある。この意匠に對し堅牢色を以て捺染する試験に成功したところが絹地に對する Multi-Coloured Acheik Design Printed なるものは全ビルマの需要を喚起し全盛を示した。(2) 絹糸撚機械の使用試験 この試験も満足に終り近代的新機械の使用を以て捺染、染色共に改良が加へられ高級織布の生産も可能なりとの確信を得たものゝ如し。

更に製品の展示並に指導方面を見るに、製織加工試験品展示に關し各方面より依頼を受けつゝあるも、經費豫算の關係もあり、各地に於てこれを行ふ事は不可能にして、結局ラングーン市に開催せられたる Arts and Crafts Exhibitions に於て相當大規模に行はれた。展示會はバセン、タトン、テンゼーク等に於て行はれ、中にもラン

グーの Playcut and Bangkok の作業展示は好評を博した。其他機業中心地には指導員の派遣を行ふて講習を與へつゝあり、巡查並に軍人に使用せらるゝ外國輸入カーキの代用品として Pini Drill の製織が獎勵せられて居る。

次ぎにラングー郊外のカマユーの織物試験所に於て行はれた指導的作業を見るに、

- (1) 絹文織 Gaung-Baung の製織フマシナイザインによるスフ、ロンギイーの製織ジャカード式機械使用による Acheik Pasoe の製織
- (2) 日本製機械 Drubing Machine 使用によるベシコックロンギイーの製織
- (3) 家庭織機用ベターンの製織
- (4) Jute, Woolen Yarn を原料とするカーベット織物
- (5) シルクット、綿スフ糸使用、ピロード織物
- (6) 人絹クレツプ糸によるクレツプ、ロンギイーの製織
- (7) コート用サージ、フランネル、ロンギイーの製織
- (8) ス、フ糸使用シャーテング

等各種の製織試験を施し研究中である。これを要するにビルマの手織工業なるものは家内工業としては充分なる發達を示しつゝあるが、B・H・T・D の一ヶ年の各種織物販賣額は十二三萬留比に止めたる點から見ても海外輸入品と對抗して一般商品化するには前途遠慮であるとの結論に達するのである。

(II) 陶磁器業 ビルマの陶磁器業に關しては先年ムールメン地方の調査を行ふて見たが、極めて幼稚なもので談ずるに足らぬ。陶土、硅石多量に有する點から考ふるときは、窯業は成立する可能性は充分あるが、陶業はこの程度に止め、民間の需要は關稅を引下げ邦品に依存せしめた方が寧ろ賢明であらう。然るに一九三六年十

二月ビルマ政府は、ビルマ陶業發達を目的としてラングーン郊外 Thanaing の Burma Pottery Works; Maymyo Mr. Mac Coll's Pottery Works に對し十萬留比並に一萬五千留比の低利資金を貸出した。ところが事業は失敗に終らんとして居り、政府は融資の回復は困難と見做して居る。筆者は前者陶業工場主とは相識の間柄にあり、事業計畫の初期工場を調査したことがあつたが、設備は近代的设计に基き獨逸機を布設し、技師は數ヶ年英國に留學したビルマ人を招き、製品も花瓶、ティーセット、デイナーセット等で中々可と申すべく、かゝる製品が市場に出て關稅高な邦品と競争するに至らば、ラングーン一ヶ年六十七萬留比の實績を有する販賣に影響を與ふるに至らんかと思ひしに、事業資金は殆んど工場設備に充當し、開業に入り經營困難となつた。工場主は自分に日緬合辦の組織を提議したが面白しき一問題であると思ふて居る。

右の次第なるに付き邦品は近き將來に影響なしと見て可なるべし。

(12) 漆器工業 當該工業はビルマ土產品中最も生命ある有望事業の一つであると確信して居る。内外の需要、製品の品位、徒弟養成と史的根據、資材と資本關係から見て將來相當の發達は期待し得るであらう。

邦品とビルマ土產品を比較するに、生産の分野を異にして居るから將來競争の對照とはならぬだらう。土產品競争見本を蒐集し日本で加工し、更にビルマに輸出を試みるとせしが、加工賃高のため日本は競争不可能の如くに察せられた。されば日本としては部門を異にした方面に向ふた方が賢明であらう。

ビルマの北方バガン (Pagan) と稱する舊都がある。數百年前バガン王朝の存在したところで、相當古き美術や趣味が今日に於ても存し、バガン王朝の全盛時代が偲ばれる。而して漆器工業が今でも亡びずに保存せられ、史

的方面から見ても工藝美術から見ても興味しきものがある様だ。ビルマ政府はバガン市に Government Technical School for Lacquer Works を十四年前創立して其指導に當て居る。現在百五名の生徒を收容して現代的なるものを製造して居る。三學級に分類し教育を施して居る。他地方よりも生徒を採用するが主にバガン市に居住する漆器職の子弟を招き、月五、八、十留比の手當を支給して教育を施して居る。製品は歐米に紹介せられ、特に倫敦から引き切れぬ注文が發せられて居るが、大量生産可能でないから引受られぬと云ふ。製品は模様付花瓶、盆、セツト、ジャー、茶托、痰壺、家庭用品等で最近は金銀の蒔繪、モザイク模造品の如く廣汎のものをも作るに至つた。

模様は花鳥風景を始めとして歴史畫もあるが、中には緻密にして精巧を極めたものがある。木、竹具を綜合したものの等、堅牢にして趣味嗜好としてビルマ特有のナショナルカラーを有する點、却て歐米人に受入れられて居る。毎年開催せられる展覽會に出品せられ即賣品あり、人氣の中心を成して居り、土産工藝品として第一位と見受けられる。先年學校にて平地黃色にナイン・グリーン・ラツカー製デザート皿、アイス・クリーム・カップ、ソース・スプーン製作に成功し、又藥を使用して乾燥を容易にすることにも効果を挙げ、トレイ、煙草入等を作り好評を博した。各地に指導員派遣講習等を行ふて業者を激勵して居る。思ふにビルマの漆器工業は國民性即ち手工に適する民性、資材と小資本との各種條件を具備して居るから指導の宜しきを得れば他市場にも輸出せらるゝ商品であらう。

其他寶石、高瀨貝、眞珠貝、木工細工等々あり、ビルマは家内工業の範圍に於て相當發達するであらう。

ビルマ産業將來を概括的に打診するに、ビルマの産業は育成指導の如何によりて發達せしむることが可能であ

る。資材と勞力との豊富な點それである。現在或る程度の工業化至難とせらるゝことは火力電氣使用のため動力の高價な點それである。ビルマには水力電氣事業に利用せらるゝ而も全ビルマ一圓之の需要に應じ得ると稱せらるゝ水源地は、シヤンステート内インレークとサルウィン河合流の個所に見出されると傳へられる。水力電氣工業の發達助成、徒弟養成の教育機關設置等の諸問題はビルマ産業開發上缺く可らざる事項であらう。

ビルマと云はず熱帶地域に屬する共榮圈産業計畫の根本理念は國情の現實に即應したる施策である。

第一に溫帶圈内に有せざる地上並に地下の資源と、地上作物に與ふる自然力の利用を先行すべきものと思はれる。換言すれば熱帶圈は農業國として育成すべきもの、溫帶圈は工業國としてこれに相對し、相互に自然法則に順應して進むべきものと思はれる。世界經濟新體制は必ずやこの方向を進るであらう。第一次世界大戰は、世界農、工兩國の均衡を破り、生産上のデイスパリティーを生ぜしめ世界貿易不振の因を構成せしめた嫌があつた。今後はかゝることのなかる可き様調整することで、少くとも大東亞共榮圈建設上の經濟貿易の指導根本理念は實に茲に存するものと確信して居るが、ビルマも其一翼として其特徴を發揮すべきものであらう。

炎天灼熱室内百度を有する工場で、例へば硝子器、陶磁器を造るより、米、ゴムを作ること、而して民需品は悉く財政に支障を招かざる程度に輸入關稅の撤廢又は低減を斷行して國民に格安な商品の提供を與ふことが賢明であらう。恵まれたる自然力を捨て工業化するなどは愚なことであると思ふ。一方自然力に恵まれざる國柄に屬する國が熱帶の模倣を敢てしたところがこれも亦同じ理である。海洋を利用し、新しき理念の下に進むべきものである。

ビルマ産業經濟、貿易に關しては具體的意見多々有するが公表の自由を有せず、但し繰言ながら無方針無計畫を以て其場限りの施策は豫め封するが賢明であることを強調力説するものである。

三 ビルマ貿易の概況

本論に於ては統計の如きを排し、重點を（一）ビルマの市場性、（二）取引系統を中心として、（三）我が對ビルマ貿易施設機關に置き、率直なる意見を述べたいと思ふ。

ビルマの貿易は一口に云へばビルマの農産物を始め、石油、鉛、木材を外國に賣却し、其代價を以て自己の欲求するものを購入して居る。不況の折柄でも一ケ年貿易額邦貨換算拾億圓内外ありて一億圓以上の出超を呈して居る。

一 市場性

ビルマは上層階級と下層階級との二層に分れ、中産階級の無い國である。これビルマの悲しむべきところであるために、外國より輸入せらるゝ商品も上下の二種に分類せらるゝので、歐米品の如き高級な高い値段を有する商品は上層部に供給せられ、邦品は下層一般人に供給せられて居る。

ビルマ人間には今日尙ほ日本の封建時代の如く商内を卑下する思想があつて、その結果商品は、賣買共に仲介人の手を経て一般消費者に提供せられて居る。これビルマのためとらざるところである。悉く外商社たる歐米人、印度人、支那人、日本人の手によりて行はれて居ると云ふも過言でない。

邦品輸出上注意せねばならぬ點は、邦品に對する一般消費者の意見なるものは日本の生産、輸出業者はこれを知ることとは困難である。それがため日本としては邦品の地盤を確立することが不可能である。其結果見込違ひの過剰生産は、邦品の價格維持に悪影響を與へた場合多々あつた。元來邦品を取扱ふ外國商社には、消費者側の商品に對する希望または趣味嗜好などを研究し、これを日本に取繼ぎする暇もなからうし親切心もない。其場限り賣れるものを次ぎ々に販賣して行く。されば本年賣れたかと思ふと來年は他の競争品に壓せられ、皆目賣れないと云ふ、云はゞ取扱人の氣まぐれで商品の運命が極め付けられる。それ故に日緬取引には無駄が多い。これを排除し我れに有利に本格的なる取引を確立せしめん目的を以て、ビルマ一般消費階級の嗜好、趣味、意見、競争品との關係等を調査せしめることが必要で、斡旋所の如き機關は缺く可らざるものである。一國の需要は刺戟により引き起される。ビルマは常に新しきものを好む流行變化の比較的激しいところである。

一般仲介人は非常に掛引きが強く、クレームも生じ易い。氣候は雨期、乾期とあり、乾濕の變化激しく商品に與ふる影響は注意するを要する。最も購賣力を發揮する季節は乾季即ち十一月より四月に至る期間で、其季節の需要は註文期日に納付すること。商品消費者は多くは奥地にある關係上、ラングーンより更に川又は主として鐵道運搬せられて居る。包裝特に嚴重たるを要す。ビルマ、取引商は代々其土地に居住したもの少く、資力も乏しく所謂遺線市國にして信用調査誠に困難なる市場である。破産整理と投資物常に市場に在りて、標準化せられざる商品特に雜貨商品の値段ありて値段なく、相手次第によりて賣られて居ると云ふ有様である。事情に通ぜざるものには危険な市場でもある。

叙上一般の市場性であるが、最近政治的覺醒に伴ふてビルマはビルマ人の手によりてと云ふ氣運各地に擡頭し、ビルマ人も取引を行ふ様になつて來た。

先年小職この時潮に乗り、バーマ・トレイド・フェデレイション並にセントラル・コンマーシャル・コーポレイション創立に協力し、顧問としてこれを指導し成績大に見るものがあつた。目的としては、(一)正當な商品をビルマ人の手を経由してビルマの消費者に直接販賣することゝし、從來の如き外商仲介者の濫賣を防止すること、(二)は一般消費者の邦品に對する要求に従ふて彼に満足を與へ、從來の如き一時的其場限りの取引を防止すること、(三)奥地に突入して刺戟を與へ、需要を引起さしむること等々であつた。彼の本邦品展示會と相俟つて本邦雜貨輸出増進對策、本邦品の地盤、壁價維持上見るべきものありしを認む。この計畫は少くとも三ヶ年計畫を第一期として、漸次奥地市場にも乗出さんとせしものであつた。

ビルマの市場性は複雑多岐なるが、工業に乏しく輸入品に依存せねばならぬ市場にして、一面ビルマ北方の國境貿易は雲南其他の支那奥地の開發と相俟つて前途洋々たる市場である。

二 取引系統

Importers 輸入商 Wholesalers 卸問屋 Retailers 小賣商の三つあり、輸入商とは大手筋で全々コミッション・ベースで取引し、歐米人或は邦人大商社これに屬す。卸問屋の大部分は印度商これに屬し小賣を兼業す。小賣商とは歐米人の經營する百貨店とビルマ各地にある公設バザー商人これに屬す。

ビルマに輸入せらるゝ商品はこれらの系統を経由して奥地に配給せられて居る。これ現地の系統であるが日本

内地に於ける仕入系統を見るに

- (1) 直 取 引 ラングーン輸入商—對外國の輸出商との取引
- (2) 其他の取引 ラングーン輸入商—輸入商の本支店又は買付指定商との取引—外地の外人ブローカー經

由仲繼港經由の取引(臺灣、香港、新嘉坡、カルカッタ、ボンベイ等)

この取引系統の複雑と取引商資産と取引決済の條件D・A・ターム或はD・P・タームの如何によりて、ラングーン市場に於ける商品の價格に與ふる影響は、歐米商品の場合に比較して日緬貿易に大なる暗影を投じて居る。日本はこの點に注意せざるため、國家として損失して居る金額は巨大なるものであらう。

日本としてはこれ自由貿易の副産物なり、過渡期の殘滓なりとして葬り去るべきものではあるまい。邦品の標準高級化、取引系統の自主的改善は、筆者は戰前より提唱し來りし大題目であつた。當局並に業者は記憶せらるゝところであらう。今日と雖も其主張は捨てぬ。否な益々改善の必要を強調す。同種別商品の價格變動の原因となるべきもの(邦品の場合)、最も惡質のものを列擧すれば左の如し。

- (1) 商品が合法的脱法行爲を敢てする者の手に入りたる場合。

イ、京濱阪神に居住する外人が、我が中小工場を廻り其資金難に乗じ現金買を行ふて競争の具に供したる場合。

ロ、又は不合格品を買付けたる場合。

ハ、通關に際し不正申告による取引を行ふ場合。

- (2) 爲替保險運賃レートをより得たる特權を競争のため時價相場以下にて利用せられたる場合。
 - (3) 商品上の利益を度外視して、レートの割戻を目的として取引が行はれたる場合。
 - (4) 小賣商と輸入商とに同種別の商品が同一値段にて供給せられ競争の對照となりたる場合。
 - (5) クォータ上の特權が競争に利用せられたる場合。
 - (6) 投機又は思惑ストック品が競争に供せられたる場合。
 - (7) 外地に輸出せられたる商品が統制料又は爲替鞘取による利益を競争の具に供したる場合。
- 等を繞り値段が千變萬化し、更に少くとも二人位の仲介人の手を経て消費者に供給せられて居る。それにビルマ一般消費者は商品に對する知識なきを奇貨として、模造品提供等各種のトリックが行はれて居る有様で、ラングーン取引の内幕を話せば戦慄を覺ゆる次第である。第三者をして乗せしめぬ用意と自肅が望まれて居る。

三 我が對ビルマ貿易施設機關

世界の動向と共榮圈確立のためには、過去の行き方を以ては到底所期の目的を達することは至難であらう。速かに再檢討を行ふて、急轉しつゝある現實より遊離せず、有効適切な運営と擴充とが絶対に必要である。ビルマ資源獲得、地上物産の利用と平行し、日緬貿易體制の改組等であらう。

一、日緬貿易共販會社の新設

二、ビルマ市場性に則應したる貿易機關の擴充と我が業界綜合の一大サービステーション新設

三、通商外交機關の擴充と宣傳部新設

四、海上交通機關の整備

右四項の諸問題を再検討し日緬通商貿易の本格化を期すること。

一 日緬貿易は米取引を除けば大體四千萬圓内外で、日本よりの輸出部門纖維工業品と其製品は大半を占め、残高は諸雜貨である。輸入部門を見れば、米、生棉花、鉛と亞鉛コンセントレイト、白豆、飼料、カツチ等である。數量から見て取引商の數が過多なるために不必要なる競争が行はれ、第三者に乗ぜらるゝを常とす。現在の狀態を放任するに於ては邦品價格引上げは期せられぬ。究極國家の外貨獲得上遺憾の點を認む。

されば戰時體制下、餘りにも摩擦を生ぜしむることを避け、且又屋上屋を架することなく、經費を殊更に増大することなく、要は過去の遺方を一元化することにより經費は捻出されると思はれ、又運營の方法により新財源を發見し得られると思はれるが共販會社新設に對し如何に從來の取引を整理するかと云ふに、重點を過去の實績に置き其割當を行ひ、一方新加入者に對し新規商品の販路開拓に當らしむることが出来る。

歐洲戰の大陸的一段階後は、少くとも歐洲より東洋市場に商品が洪水の如くに流れ來ることを豫想せねばならぬ。日本として戰時と雖も施され得べき施設或は貿易體制の改組は着々進むべきものであらう。本國に於て統制行はれたとしても、邦品仕向地に於て邦品販賣の自主的統制行はれざるところ依然として貿易の自由放任を意味し、結果から見ると邦品の値上、邦品の新味薄し、邦品の價格變動過多と云ふ非難を聞くことに終るであらうと今日に於ても豫想せらる。

戰時下に於ては物價の上騰は不可避なる現象である。輸出商品に關する限り低物價政策の狙ひどころは外國市

場に於ける物價に平行し、價格の點にて他競争品と競争し得る價格を限度とす。ラングーン港に於て一時邦品は價格の點に於て米國品と太刀打不可能な珍現象が現はれたりしたが（註、米國は戰爭の影響を受けず平和産業維持せられた時代に對し日本は聖戰の直接影響を最も深刻に受けた時代）概して邦品は輸出値段と云ふ特價にて販賣せられた。寧ろ安すぎた位であつたが、大勢は將來諸物價が上騰する傾向にあるから戰前の如く安値を武器とする譯には行かぬ。しかし取引系統機關の整備完成の暁はビルマ市場に關する限り邦品の高値必ずしも悲觀の要なしと思はれる。

かゝるが故に參考私案として（甲）日本側に於ては既に組合が結成せられた向きの重要輸出商品に對しては、其所屬組合又は組合指定の商社或は新設貿易共販會社をして當該商品の輸出を行はしむること、而して從來の小輸出業者は悉くこれにリンクすること、（乙）ビルマ・ラングーン側、日本の指定する商品の取引はラングーン邦品輸入組合員をして行はしむ。他國のことなれば或は輸入組合成立困難なる場合もあらんが、其場合はラングーンの取引商は日本に於て詮考し指定すること、日緬間指定商の取引は甲、乙間に於てのみ行はしむること。輸入部門は即ちビルマより原料輸入する場合は前規定を參酌しこれを行はしむるものとす。

右輸出入指定商品以外の商品の取引は新設共販會社をして行はしむ。新規定に基く日緬取引はラングーン貿易幹旋所を内外中樞機關として協力せしめること。

二 ビルマ市場性に則應したる貿易機關の擴充。

ラングーン貿易幹旋所は創業匆忙にして其内容充實を缺き成績見るものなかりしことを遺憾とするところなるが、逐次所期の目的達成途上不幸なる事件突發を見て今日に及びしが、既設事業の外にこの機關を中樞として

各調査員出張員は常にこの「ステーション」を利用せしむること。

(イ) 不統一の資源調査並に買付は不必要なる刺戟を市場に與へ、究極するに高値を以て資源を買付くることとなる、其點を是正する必要あり。

(ロ) 調査報告一元化を缺くためビルマ市場の真相は誤認せらるゝ場合あり、公平なる調査を行はしむる様是正すること、又意匠を研究する「デザイナー」の専門員、機械の販路擴張のため専門技術員等は幹旋所内に駐在せしむることを可とす。

以上擴充する外、我が業界を綜合したる一大サービス・ステーションを新設し、常住ビルマ市場の需給と移行とを實物試験を介して情報せしむる事が益々必要である。而してこれを奥地にも進出せしめ常に新しく有機體的のものとする。

三 通商外交機關の擴充と宣傳部新設。

ラングーン領事館の昇格は時宜を得たるものである。大に擴充せられんことを希ふ。公館の資力とはともかく人的陣容に於て公使館程度のものである必要がある様に觀察せられる。商務官の交換其他専門技術員を常置し國家の企畫と平行せしむること、産業、文化、宗教の宣傳を實際化する新部員の設置等考へさせられるものであらう。何れにしても外地機關の和は生命にして、國家の總力を外地に於ても發揮せしむる様根本理念の確立が望まれて居る。

四 海上交通機關の整備は從來の配船に對し「スピード・アップ」することゝ冷凍設備を施す等少くとも歐米ラインに匹敵せしむることを必要とせられる様觀察せられる。(完)